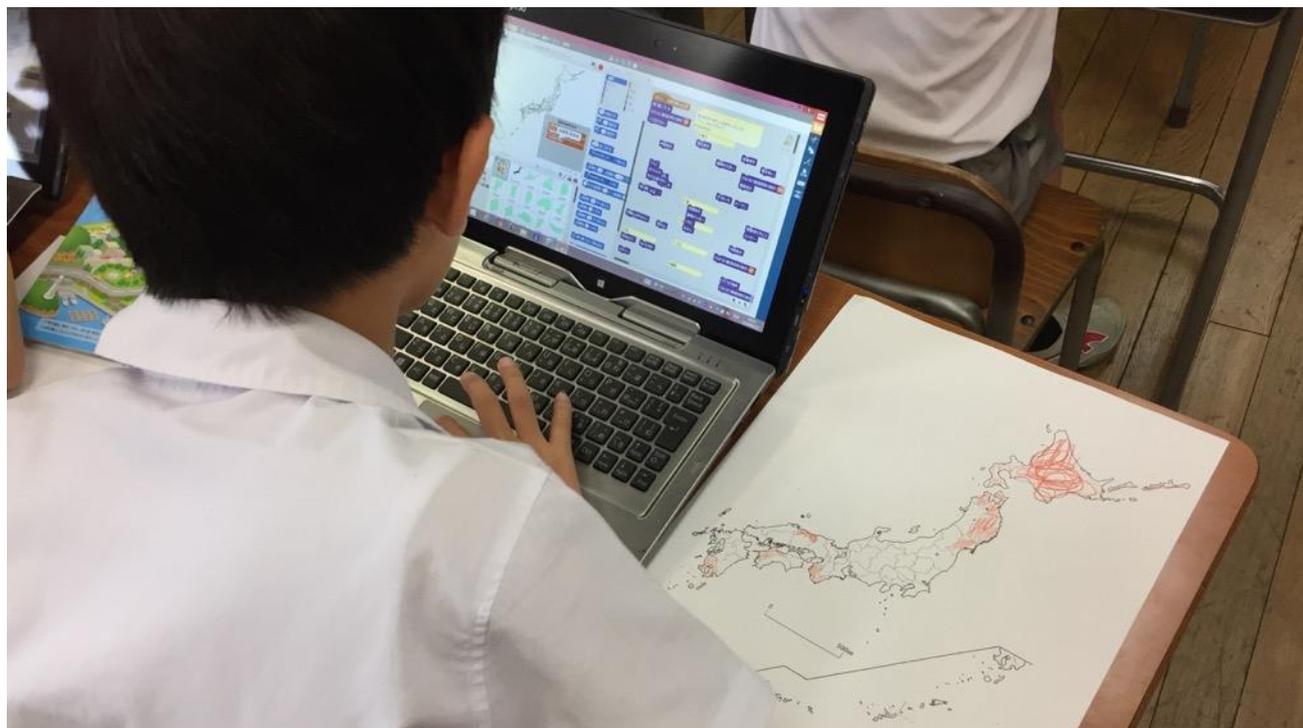


## ブロックを組み合わせて 47 都道府県を見付けよう



学年	小学校第 4 学年
教科（授業内容）※ 1	社会（都道府県の様子 4 7 都道府県の名称と位置）
情報提供者	東京学芸大学附属小金井小学校
学習活動の分類 ※ 2	B.学習指導要領で例示された教科単元等以外
教材タイプ	ビジュアルプログラミング
使用教材	Scratch 2（オフライン版をインストール）
コスト・環境	学校所有のパソコン 1 人 1 台利用
都道府県	東京都

## 学習活動の概要

---

### ● 単元や題材などの目標

コンピュータのプログラムを活用し、都道府県の地理的環境や自然条件、面積、人口や特産物などの特色を組み合わせ、都道府県を特定する活動を通して、47 都道府県の名称と位置を理解する。

### ● 単元や題材などの学習内容

本小単元は、第 4 学年の 2 内容の(1)アの「(ア) 自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また、47 都道府県の名称と位置を理解すること。」を踏まえ、単元「都道府県の様子」の中で、その内容を構成したものである。

ここでは、地図帳などを活用して、地図上で各都道府県の名称や位置を調べて確認したり、白地図上に書き記したりする活動を通して、我が国が 47 都道府県で構成されていることや 47 都道府県の名称と位置を理解することが求められている。なお、47 都道府県の名称と位置の理解については、「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」の 1 (3)において、「我が国の 47 都道府県の名称と位置、世界の大陸と主な海洋の名称と位置については、学習内容と関連付けながら、その都度、地図帳や地球儀などを使って確認するなどして、小学校卒業までに身に付け活用できるように工夫して指導すること。」と示している。このため、本小単元で 47 都道府県の名称と位置全てを理解することを求めているわけではなく、児童が、他の単元でも繰り返し扱う中で、小学校卒業時までに身に付け活用できるようにすることが大切である。

### ● プログラミング体験の関連

本小単元では、Scratch のプログラムを中心の教材としながらも、地図帳や白地図を同時に活用しながら学習を進めていく。使用するプログラムは、47 都道府県の特徴が記されたブロックを組み合わせることにより、組み合わせたブロックに記された特徴に合致した都道府県の名称と位置を示すよう、「Scratch」で作成されたものである。

特徴が記されたブロックを組み合わせることは、特徴の組合せを見付けることであり、特徴という条件によりふるいをかけ、その条件に合致する都道府県を 1 つに特定する学習である。同時に、児童は、地図帳を活用し、特徴を探し、試行錯誤しながら特徴を組合せ（＝条件設定を行い）、都道府県を特定する。こうした活動により、児童は、都道府県の特徴とともに名称と位置を理解していく。条件設定は、ブロックを組み合わせることで簡単にできる。何度も何度も繰り返し取り組むことができたり、足りない条件（特徴）を地図帳から探したりすることで、単に地図上で理解することよりも思考を伴った学習活動になることが期待できる。特徴を組み合わせ（＝条件設定をして）都道府県を特定する活動を簡単な操作で可能にすることは、このプログラムの利点と言える。また、児童が地図帳を活用せざるを得ない状況にすることも利点でもある。児童も楽しく操作しながら思考でき、理解につながることを期待できる。

本小単元で活用したプログラムは、児童が条件設定しながら 47 都道府県の名称と位置を理解していくように活用できるものである。このプログラムは、第 5 学年では、産業や国土の学習を通して獲得できる都道府県の特徴を、第 6 学年では、歴史の学習を通して獲得した歴史的事象や文化遺産などを、それぞれ条件として追加して活用することができる。また、地図や条件を変えれば、第 5 学年で世界の国々を扱う際にも、中学校地理的分野においても、活用することができる。このため、小学校第 4 学年以降も、地図や条件を変えて、継続的に活用していくことも考えられる。

次	時	主な学習活動
1	1	<p>(本時 1 / 3)</p> <p>タブレット上のプログラムを使い、都道府県の特徴を組み合わせて 47 都道府県を見付け、名称と位置を確かめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 47 都道府県の見付け方を知る。</li> <li>2. タブレットを使った都道府県の見付け方を知る。</li> <li>3. タブレット上のプログラムを使って、47 都道府県を見付ける。</li> <li>4. 今日の活動をふりかえり、カードにまとめ発表し合う。</li> </ol>
2	2	<p>タブレット上のプログラムを使い、都道府県の特徴を組み合わせて 47 都道府県を見付け、名称と位置を確かめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タブレットを使った都道府県の見付け方を確認する</li> <li>2. タブレット上のプログラムを使って、47 都道府県を見付ける。</li> <li>3. 今日の活動をふりかえり、カードにまとめ発表し合う。</li> </ol>
3	3	<p>都道府県の特徴を使って、お互いに 47 都道府県クイズを出し合い確かめることで、条件から 47 都道府県の名称と位置がわかる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 47 都道府県の条件を使って、問題を出し合う方法を確認する。</li> <li>2. 47 都道府県の条件を使って、グループで問題を出し合う。</li> <li>3. 今日の活動を振り返り、カードにまとめ発表し合う。</li> </ol>

## 本時の学習（1/3時間）

---

### 1) 本時のねらい

タブレット上のプログラムを使い、都道府県の特徴を組み合わせで47都道府県を見付け、名称と位置を確かめる。

### 2) 新学習指導要領上の位置付け

社会

第2 各学年の目標及び内容

〔第4学年〕

#### 2 内容

(1) 都道府県（以下第2章第2節において「県」という。）の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また、47都道府県の名称と位置を理解すること。

(イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。

#### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(3) 我が国の47都道府県の名称と位置、世界の大陸と主な海洋の名称と位置については、学習内容と関連付けながら、その都度、地図帳や地球儀などを使って確認するなどして、小学校卒業までに身に付け活用できるように工夫して指導すること。

### 3) 本時の展開

#### 1. 47都道府県の見付け方を知る

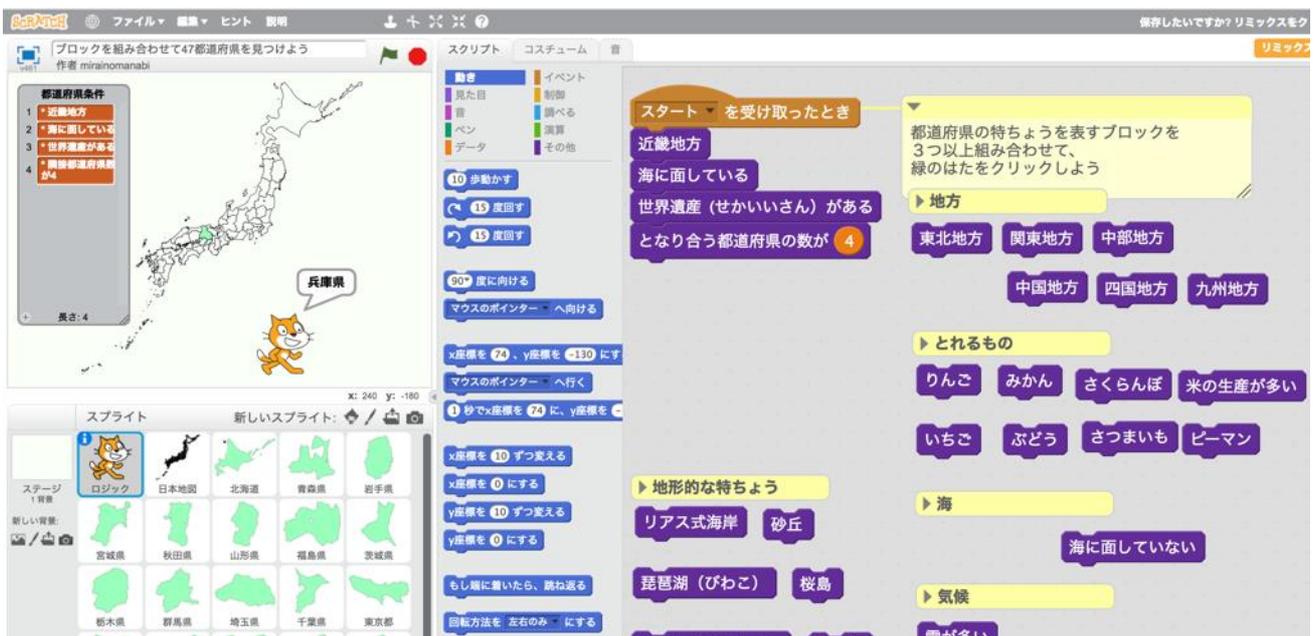
- 例として北海道を取り上げ、北海道を特定するためには、どのような特徴の組み合わせが必要かを児童に問いながら、特徴が記されたブロックを組み合わせで都道府県を見付けることを確認する。
- 地図上で確認するように促す。



北海道の特徴を発表している様子（黒板には Scratch と同じブロックを印刷して貼り付けている）

## 2. タブレットを使った都道府県の見つけ方を知る

- 特徴の組合せにより都道府県を特定できることを確かめた後に、Scratch のプログラムを使って都道府県を見付ける方法を説明する。
- 今回は、必ず 3 つ以上のブロックを組み合わせ、都道府県を 1 つに特定することを伝える。
- 作業時間を短縮するために、プログラムは事前に開いておく。また、プログラムの操作方法をスクリーンに映して確認できるようにする。



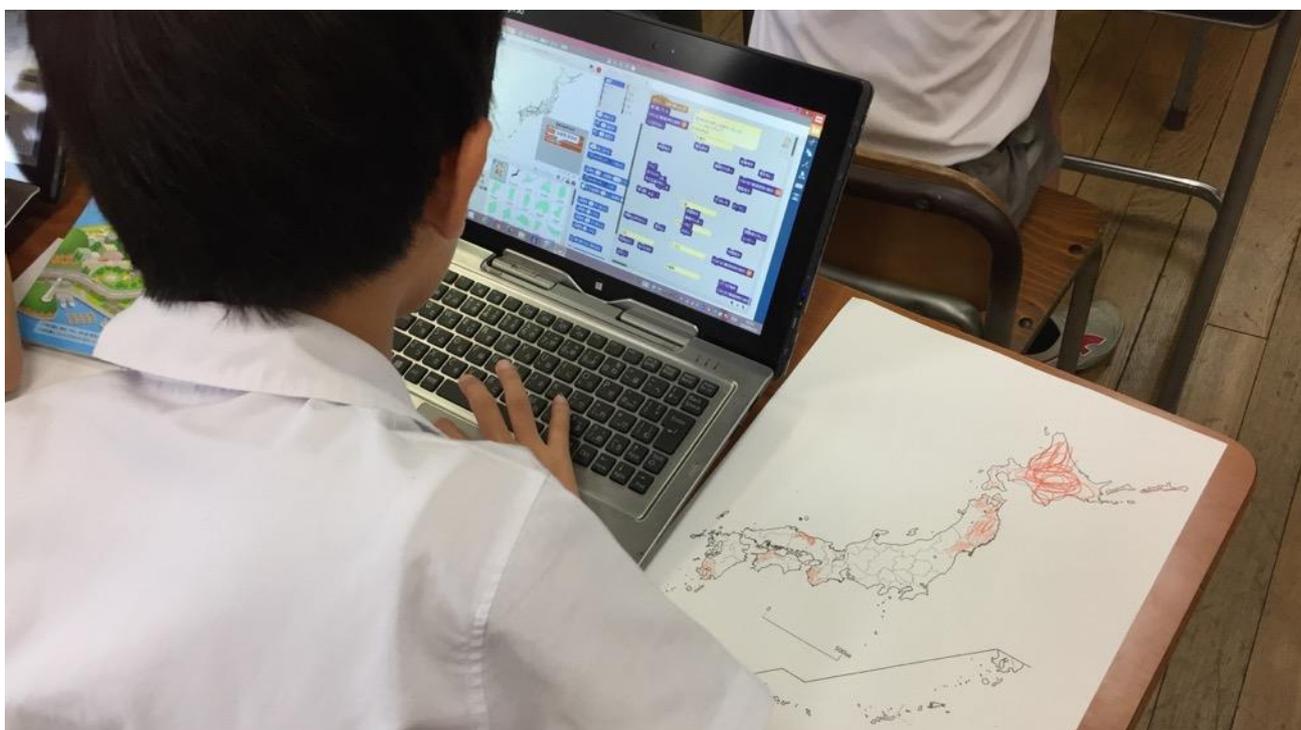
プログラムの様子（4 つのブロックを組み合わせ、兵庫県を見つけた例）

### 3. タブレット上のプログラムを使って、47 都道府県を見付ける

- タブレットを操作して、都道府県を探していくよう促す。見つけた都道府県は、白地図に色を塗っていくよう伝える。
- ブロックを組み合わせる際に、地図帳を使いながら行うよう助言する。
- 一人一人が十分にタブレットで操作できるよう、活動時間を十分に確保する。



地図帳を確認しながら、特徴の組合せを考える



見つけた都道府県について、白地図に色を塗る

4. 今日の活動を振り返り、ふりかえりカードにまとめ発表し合う

- いくつ都道府県を見付けることができたかなどを確認する。
- 振り返りの発表を行う。

「続きをやって47都道府県全てを見付けたい。」

「条件を組み合わせることで、その都道府県の特徴がよく分かった。」